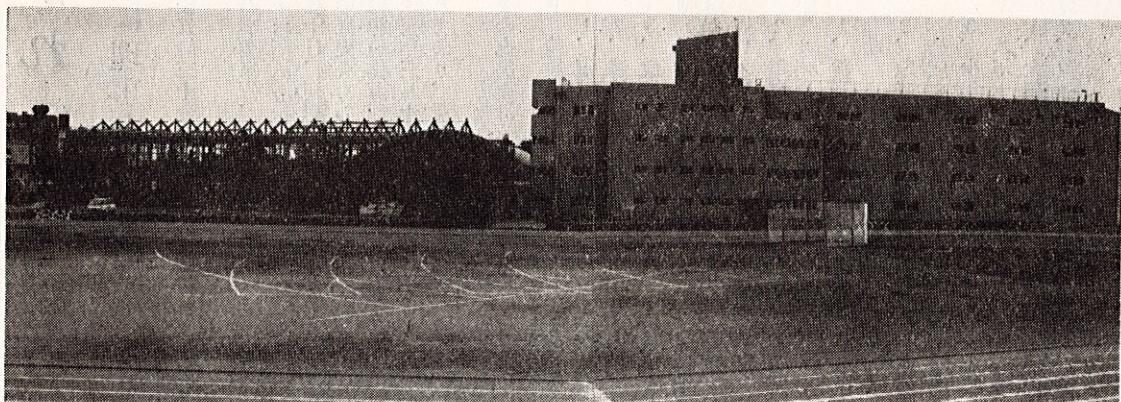


柏崎体育

発行所 柏崎体育団

編集人 宮崎七郎

印刷所 柏崎印刷株式会社



柏小改築すすむ

柏崎小学校は47年5月から改築工事が施行され昨年までに写真右側の西校舎4階が完成、更にその西側に西運動場を建設、同時に写真左の東校舎がとりこわされて待望の柏小グラウンドが整地される。総工費5億5,000万円といわれる。

公認グラウンドと柏崎小学校は切っても切れない因縁があり、またそれだけに問題も起ったことでもある。

『時は大正5年4月5日である。鯖石小学校から検定あがりの見るからに貧弱な30男の教員が柏崎小学校の末席訓導として赴任して来た。それがこの私であった。……校舎の窓から砂山を眺めながら「この『ぐみ山』をならして、大運動場を建設するぞ」これがためにこの私の全生涯を捧げよう。私はよき死地を見つけたり、と感激を胸にひたすら教育の実践に心魂を傾けるのだった』

こう語ったのは故坂田四郎吉先生であり、その校舎の窓こそ今まさにとりこわされようとしている建物であったかも……。

陸上競技場もいろいろの変遷があって今日を迎え、とりこわされる柏小を眺めて感無量というべきか。

5	5	5	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
22	11	2	28	27	23	23	16	9	8	26	25	12
(新)	おはようサイクリング 県体協常任理事会 開始(九月まで毎日曜)	館中ホール	県体協評議員会 (佐渡五)	スポーツ振興審議会 (第一中)	婦人バレーボール大会 壮年体力テスト(柏高)	市民スキービッグスキー大会 金倉滑降スキービッグスキー大会 台開き (北条)	200名参加、ミニジャン	39名参加 スキー教室(鶴川)	63名参加 スキー教室(鶴川)	70名参加 スキー教室(須原)	140名参加 スキー教室(須原)	140名参加 スキー・バッジテスト
おはようサイクリング 県体協常任理事会 開始(九月まで毎日曜)	館中ホール	県体協評議員会 (佐渡五)	スポーツ振興審議会 (第一中)	婦人バレーボール大会 壮年体力テスト(柏高)	市民スキービッグスキー大会 金倉滑降スキービッグスキー大会 台開き (北条)	200名参加、ミニジャン	39名参加 スキー教室(鶴川)	63名参加 スキー教室(鶴川)	70名参加 スキー教室(須原)	140名参加 スキー教室(須原)	140名参加 スキー・バッジテスト	

あしあと

委員会開かれれる

規約改正・新たに理事会を構成

柏崎体育団委員会は五月二日午後五時三十分から産業会館中ホールで開かれた。

年度当初の委員会であり、恒例の事業報告、決算報告、新年度の方針、施策、事業、予算に統いて規約の改正が行なわれた。柏崎体育団は、大正十一年十月二十日、刈羽郡体育協会として発足したのですでに五十二年の歴史をもち、昭和十五年柏崎市体育団となり、昭和二十一年に柏崎体育団と改称され現在にいたっている。現規約は昭和二十三年三月十四日に設定されたものがほとんどそのまま持込まれており、現状と比して大規模な改正となつた。

特に理事会制度を設け、施策事業の充実を計ることとした。

昭和五十年度

基本方針・重点施策

◎ 基本方針

「スポーツは、人間本来の活動をとり戻すという意味で現在生活不可欠の要素である」

このことを基本として、優秀な育成はもとより、八万市民の体育、スポーツ活動の浸透をはかるため、次の重点施策を考える。

◎ 重点施策

- 組織の確立
- 本團機構の改革
- 加盟団体の強化と相互の連携
- 未組織種目の組織育成

V 新潟県中越スポーツハウス

VI 月橋

VII 奈井

VIII 佐藤

IX 平野

X 近藤

XI 稲田

XII 今井

XIII 哲夫

XIV ハウス

XV フィル

- 事業への協力
- 指導者の派遣
- 研究施設としての効用を高めるための援助

柏崎体育団

(付則)
この規程は、昭和五十年五月二日から施行する。

事務局規程

(趣旨)

第一条 この規程は、柏崎体育

團規約第二十四条に基づき柏崎体育団事務局(以下事務局)というの構成及び運営について必要な事項を定める。

第二条 事務局に次の職員をおき、団長が委嘱する。

(職員)
事務局長 一名

第三条 事務局長には、市職員を

長の承認を得て委嘱することができる。

(職務)
事務局次長 一名
書記 若干名
事務局次長 一名

第四条 事務局長は、職務を掌理する。

第五条 事務局次長は局長を補佐し

局長事故あるときはその職務を代行する。

第六条 書記は上司の命をうけて事務に従事する。

(雜則)
第七条 第二条第一項による職員は、無給とする。

第八条 第二条第一項による職員は、無給とする。

第九条 旅費については、新潟県柏崎市旅費に関する条例を適用するものとする。

第十条 第六条 事務局の文書、職印等の取扱い及び事務処理については、柏崎市諸規則の例によ

四〇〇メートル競走

陸上競技場検定合格現在日本最古の歴史

五年に一度日本陸連の公認検定を受ける「市営陸上競技場」

は、本年その年にあたり、去る六月十四日検定を受けた。

日本陸連検定員、本山康雄氏と手島弘信氏の来柏を得て午前中に競技場を、午後二〇時走路

の検定を行なった結果、両方共に合格した。

特にグラウンドにおいては、四〇〇メートルという結果が発表され、理想的なグラウンドであると太鼓判を押された。

ご存知のようにこのグラウンドは大正十二年に建設されたもので、そのくわしいことは「陸上競技場五十周年記念誌」(一九八八年十月十四日発刊)に縷々掲載されているが、日本陸連でも現存する競技場としては日本最古のものとして今後もその維持管理に万全を期して欲しいと要望していた。

昨年に引き続き棒高跳助走路の

ターラン舗装を完成し、走幅跳

走高跳、投擲の各走路、三千メートルの舗装と合わせフィル

障害水濠の舗装も一応完了した。

昭和50年度予算書

柏崎体育団

収入の部

(单位·μm)

項目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)	摘要
前 年 度 繰 越 金	207,272	46,801	160,471	昭和49年度からの繰越金
加盟団体負担金	24,500	27,000	△ 2,500	45団体×500 未納分 2,000
贊 助 会 員 費	180,000	85,000	95,000	本団賛助会費 70,000 県体協賛助会費還元金 110,000
補 助 金	200,000	200,000	0	柏崎市から
委 託 料	200,000	200,000	0	柏崎市から
事 業 収 入	450,000	100,000	350,000	売店会計利益
寄 付 金 そ の 他	15,000	120,000	△ 105,000	
計	1,276,772	778,801	497,971	

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)	摘要
◎事務局費	494,000	332,000	172,000	
1. 負担金	8,000	8,000	0	県体協負担金
2. 会議費	60,000	30,000	30,000	委員会賄料、茶代
3. 交際費	30,000	20,000	10,000	団長交際費
4. 給料	115,000	80,000	35,000	書記給料 50日分
5. 旅費	30,000	20,000	10,000	国体視察、県体協会議
6. 消耗品費	10,000	3,000	7,000	事務用消耗品
7. 印刷費	200,000	160,000	40,000	「柏崎体育」6回 封筒印刷
8. 通信費	30,000	7,500	22,500	郵便料
9. 借損料	10,000	2,500	7,500	会議会場借上料
10. 備品費	1,000	1,000	0	
◎事業費	770,000	445,000	325,000	
1. 大会費	150,000	130,000	20,000	スポーツ大会100,000懇親会50,000
2. 研修費	100,000	50,000	50,000	研修会5回 指導員養成 50,000
3. 表彰費	100,000	100,000	0	
4. 普及助成費	70,000	35,000	35,000	スポーツ少年団育成 少年スポーツ教室等
5. 選手強化費	200,000	100,000	100,000	国体参加20,000 競技力向上教室90,000選手強化90,000
6. 体育史刊行費	150,000	30,000	120,000	体育史資料整備
◎予備費	12,772	1,801	10,971	
1. 予備費	12,772	1,801	10,971	
計	1,276,772	778,801	497,971	

去る七月十四日開催の第二回理事会の席上、近藤校長は次のように事務局員を委嘱しその中で当事務を発表した。

発表された事務局員は現在のところ教育委員会体育課と中学校スポーツハウスマネージャーとして構成されており、体育史編さんとの関連で後日民間の起用も考えてゐるとの意向を示した。

事務局職員と 担当事務